

第2回 いばらき自転車活用推進委員会

議事録

日時：令和4年2月22日(火)10:00～12:00

会場：茨城県庁 12F 県民生活環境部会議室

<出席者>

	区 分	氏 名 (敬称略)	所 属 等
1	委員	平田 輝満	茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学 領域准教授
2		本村 陽一	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター首席研究員
3		室谷 恵美	LIFE CREATION SPACE OVE マネージャー
4		中島 祥元	(一社) ルーツ・スポーツ・ジャパン代表理事
5		宮内 忍	日本風景街道コミュニティ サイクルツーリズム研究部会 顧問
6		絹代	サイクルライフナビゲーター
7		川崎 隆義	いばらきサイクリング協会理事長
8	県関係者	海老原二良	県民生活環境部スポーツ推進課 課長
9		藤田 進一	県民生活環境部スポーツ推進課 課長補佐
10		中嶋 拓人	県民生活環境部スポーツ推進課 係長
11		海老原 徹	土木部道路維持課 道路保全強化推進室 室長
12		見澤 正勝	土木部道路維持課 技佐
13		浜野 博英	土木部道路維持課 道路保全強化推進室 室長補佐
14		根本 利通	土木部道路建設課 課長補佐

<資料>

- ・ 次第、委員名簿、座席表
- ・ 資料1：意見一覧及び対応方針
- ・ 資料2：いばらき自転車活用推進計画 改定のポイント
- ・ 資料3：次期いばらき自転車活用推進計画（案）の概要
- ・ 資料4：次期いばらき自転車活用推進計画（素案）
- ・ 資料5：自転車活用推進計画改定スケジュール（案）
- ・ 参考資料1：措置内容「新旧対応表」
- ・ 参考資料2：成果指標「新旧対照表」
- ・ 参考資料3：県民・県外向けアンケート調査結果

1. 開会

2. 委員長・茨城県挨拶

藤田スポーツ推進課長補佐	<ul style="list-style-type: none">・第2回いばらき自転車活用推進委員会を開催する。
海老原スポーツ推進課長	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルスが落ち着かない状況で、こういう形での開催になったことは残念である。・第1回委員会より半年経過したが、策定スケジュールも当初の予定より若干後ろ倒しになる形で進めている。・前回、委員より頂戴したご意見への対応や、道路維持課等と調整を行い、計画案を作成した。ボリュームが多いが、忌憚のないご意見を頂戴したい。・この改定作業を通じて、安全・安心に走行できる環境づくりが基本だと痛感した。・県としてはサイクルツーリズムに注力している。住んでいる人も、外から来る方々も自転車で楽しく走れる走行環境づくりについて追加できればと考えている。
平田委員長	<ul style="list-style-type: none">・本委員会の会議資料はホームページで公開する。

3. 議事

(1) 前回委員会の振り返り【資料1】

本村委員	<ul style="list-style-type: none">・データの活用についてのところで、中島委員や平田委員長などからコメントがあり、それに対する出口を確認したい。・今の対応状況でまずは問題はないが、将来的なことも踏まえると、モビリティをスマートシティの文脈でデータに基づいて発展できるようにしようという機運が全国的にもある。今の対応状況でデータの活用が一段落してしまうという意味ではないかを確認したい。データの活用は引き続き検討していただけるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・この計画を作って終わってしまうということではなく、引き続き活用の仕方、整理の仕方も含めて有効に使って検討したいと考えている。
本村委員	<ul style="list-style-type: none">・単に「データ」という括りだけしかないのはわかりにくい。・オープンデータとして出す場合は集計データになると思う。その次がいきなり「生データ」という概念になってしまっている。生データの公開はいろいろなハードルがあり難しいことは理解している。その中間に当たるような施策のために活用できる例えばクロス集計表や、特定の仮説について比較して、その仮説が成り立っているかどうかを判断できるタイプのデータであるとか、いきなりオープンデータに載せるものと生データの中間の概念を検討していただくと活用が広がると思う。

事務局	・承知した。
中島委員	・4番の公開のところで、用途などを提供先に求める形で、要は問い合わせがあったところのみ公開しているという話だと思うが、現状どんな機関から問い合わせがあり、どのくらい公開されているのか。
事務局	・今年から整理して公開したところであり、まだこれからの状況である。
中島委員	・公開のサイトを拝見した。分量が多いので全体的なデータに関してはこの形でいいと思うが、可能であればサマリー版として、こんなデータがこういう感じで格納されているというのが公開先のサイトの誰でもアクセスできる場所に情報として置いておき、これを見て興味がある方がもっと深掘りするために問い合わせをするという形にしたほうがよいのではないか。今のままだとどんな情報があるのかもわからない。
事務局	・掲載の仕方を工夫したい。
絹代委員	・安全教育について、対応状況に「ルール・マナーの遵守状況に差異が見られており、安全教育では結果に応じた周知啓発を進める」とあるが、この「結果」というのはアンケートで皆さんが「守っている」と言ったかどうかということが結果なのか。 ・ほかの地域で同じようなアンケートを取っているが、アンケート上は左側通行をしている、一時停止していると答えるが、実生活で全然していない方ばかりである。意識しないまま逆走したり、意識しないまま交差点をそのまま直進したりという方が多いのが現状だと思う。守っている、知っていると答えたからOKと流してしまうと結局状況が変わってこない。心配になった。
平田 委員長	・確かに言うこととやることは違う。言ったことを信じるだけでなく、結果も見 る必要がある。
絹代委員	・遵守状況の回答が結果としてみなされる形であると現状は変わらない。今、日本中で自転車事故が増えている状況である。茨城県内のほかの市で私が委員をやっているが、死亡事故が起きてしまっている。重篤な事故が増えてしまっている。アンケートの結果は鵜呑みにせず、慎重に進めたほうがよい。
事務局	・啓発、教育は幅広く進めていきたい。
絹代委員	・ぜひよろしく願いしたい。
宮内委員	・No.9を確認したい。県のモデルルート、つくば霞ヶ浦りんりんロード以外の3ルートについて、国のモデルルートの2大要件の1つが自転車のネットワーク計画に組み込まれていること。もう1つが官民連携のサイクルツーリズム協議会がある。これは3ルートともあるということによいのか。
事務局	・鬼怒・小貝のほうがまだでき上がっていない。こちらはまだモデルルートの登録申請はしていない。シーサイドとヒルクライムは要件が満たされているので、載せる方向でいるという情報をいただいている。

(2) いばらき自転車活用推進計画（素案）について【資料2～4】

■将来の姿

室谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来」の都市環境、安心・安全、健康、環境、観光の内容はどのように考えたのか。サイクリストの意見を聞いてやったのか。サイクリストというのは茨城のサポートライダーのことを言っているのか、どういう方々が対象なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の勉強会に参加している方はサポートライダーのほか、市町村の計画策定にかかわるサイクリスト、自転車ショップの方、平田先生、県内でサイクリング活動をしている方のご意見である。
室谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来」を描いた内容は、その中で挙げられた内容なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画を策定した際にいただいたものがベースであるが、再度実際に走っている方からも同じような形の意見が出てきた。4つの柱は意見をもとに踏襲した形になっている。 ・勉強会では自転車計画の中の主にサイクルツーリズムに係る部分の構想についてご意見をいただいている。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見をいただいて事務局で揉んでもらった。もう少しビジョンらしいビジョンの書き方やイラストなどアドバイスがあればいただきたい。
室谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・印象として、県内の方々に聞いたということでもあるのだが、まちづくりの視点で考えると、観光も含めて、住民との交流、関係人口、交流人口促進というところは非常に大事であると思う。乗って楽しいことだけがクローズアップされている気がする。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは出ていたが、漏れているかもしれない。どこを大事にするか、ビジョンの議論は必要かもしれない。引き続き検討したい。
絹代委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補足資料に赤字で国内外からのサイクリストが「安心して何度も楽しめるサイクリング王国いばらきの実現」と記載があるが、これが掲げる内容になってくのだろうかとう理解している。どれも必要な項目だと思うが、これまで何度もというのは恐らくリピーターを獲得していくという切り口だと思う。この計画の中にリピーターを得るという文言はなかった。その後には今後の目指すべき将来の姿がある。滋賀県がこういうのをやっている。一般市民の方でもこういうビジョンを持って進めているということが理解しやすいページになってくので、住民の方との接点としてはわかりやすく将来の姿をまず描くというのは効果があるというのは理解している。ただ、関係人口を増やしていくとか、この土地に特別な感情を持って通ってくれる人を増やすみたいな項目が赤字で掲げられているわりには、「何度も」のところは今の計画にない。もったいない。どこかにそういうテイストを入れていただきたい。 ・安全・安心のところはかなり強く言われているが、安心・安全の将来で描いているところが弱い。自転車がマナーを守ってというところは、このページは一般の県民との接点になるところなので重要だと思うのだが、ルールを守ることがまず大切。ルールをまず絶対に守らなければいけないというところを今後強

	<p>く出していかなければいけないと思う。このあたりの文言は注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車に反射材がついているという表現だが、無灯火の車がトンネルの中に入ってきたら反射材だけでは見えない。ライトが重要である。このページでわかりやすく伝えることは重要である。特に安全・安心のところや、赤字で掲げている3つのリピーターを得るとか、そういうところはぜひこのページの中に描き込んでいただきたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおりである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫して盛り込んでいきたい。
本村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような事故があったかというデータは安心・安全のために活用することは検討しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の詳細は精査できていない。内部で検討したい。
本村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・データの活用というと大ごとのように聞こえるが、何度も楽しめるといったリポートしているかどうかをどうやったらわかるかとか、安全・安心のために過去の事故の様子をどうやったら伝えられるかとか、そういった形で具体化できるのではないか。 ・今回目指すべき将来の姿がかなり大きく変わったという印象を受けている。いい方向に変わったと捉えている。サイクルツーリズムを中心にした用語が右のほうに変わったことで行動が伴った形に変わっている。 ・「楽しく」というのは誰がということ、主語が明らかになっていくと思う。主語を明らかにしようと思うと、SDGs などでもうたわれているマルチステークホルダープロセスといった対話が重要であるという方向に行くと思う。それが今回の勉強会を通じて対話のプロセスが入ったことで主語やアクションが明確になったという効果だと思う。ぜひその方向で進めるということがあると、結果だけ見ると唐突に見えてしまったが、とても良い兆候だと思うので、そういった方向性であるということが明確に盛り込まれる、あるいは意識されるとよいと思った。
川崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・霞ヶ浦りんりんロードはかなり人が来ている。リピーターも来ている。ロードレースで飛ばす方、レンタサイクルでゆっくり走る方もいる。霞ヶ浦一周というと反時計回りで走ってきたが、りんりんポートができて、レンタサイクルをやっているということで、右回りで霞ヶ浦交流センターに行き帰ってくる方が多くなった。左回りのロードレーサーが30~40キロで走ってくる。片やこちらは15~20キロ、またお子さんもいる。サイクリングロードの走り方のルールも決めて提示したほうがよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確かにみんな同じ向きで回るわけではない。ルールを一律的に決めるかどうかも含めて検討したい。
川崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、車と自転車と言われているが、自転車が多くなると、自転車同士、自転車

	と歩行者の事故も増えている。サイクリングロードは歩行者も歩く。対向車が来たら減速するとか、ライトを点滅するというのも車だけでなく、歩行者や対向の自転車に対して、スマホを見ながらのながら自転車の方もいるので、ルールづくりは必要である。
宮内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画で目指すべき将来像の改定案が赤字で書いてあるが、「安全して」というのは「安全・」が抜けている。自転車の走行に関する安全と安心は内容としては重なっている部分はあるのだが、別の部分もある。「安全・」は残していただきたい。 ・できれば「誰もが」という言葉も入れていただきたい。初心者から、スピード走行を楽しむ愛好者もいれば、外国から来る方いれば、高齢者や子どももいる。以上の2点を盛り込んでいただきたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と整合が取れていない。サイクルツーリズム構想と推進計画の二重なのでわかりづらい。全部入れるとややこしい。どうするか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム構想と推進構想が2つあるのは確かにわかりづらい。うまくそれらを表せるか、ご指摘も踏まえて内部で検討する。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・何が重要かということと、階層になっているのであれば、大テーマとサブテーマと分けてもよい。工夫していただきたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の姿のところに「楽しい」という言葉を入れることには大賛成である。ツーリズム文脈においても健康増進の文脈においても、人々の行動を一番モチベートするのは楽しいかどうかということだと思う。安全・安心が下支えにありつつ、楽しさが大事である。 ・本村委員の主語が誰なのかという話や、室谷委員の乗る人だけでなく地域住民との交流、対話という話で言うと、乗りに来てくれる方が楽しいだけでなく、それを通して受け入れる方々も楽しい、自転車を通じた交流を通じてみんなが楽しくなる社会が目指すべき姿だと思う。そういった意味を含めて「楽しい」という言葉を使うのは賛成である。 ・ビジョンをどのように示していくかということについて、文章では伝わりづらかったり、解釈に差が出たりする。達成すべきビジョンをイラストにし、そのイラストの中には上級サイクリストもファミリー層も楽しんでいる、受け入れる地域側の方々も笑顔で、道路環境が整備されていてという、理想の一枚絵があると県内外にアピールしていくときにわかりやすいのではないか。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・中島委員のバーチャル背景に「楽しい」がゴールと書いてある。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの活動も「楽しい」を重視しているので賛同する。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境にやさしいとか健康というよりも、突き詰めると、楽しいから乗るという側面もあるかもしれない。サイクルツーリズムを前面に押し出しすぎだと感じていたり、なぜサイクルツーリズムを県が公共政策として進めるのかモヤモヤしていたりしたが、自転車が身近になって、楽しんで、入口としてサイク

	ルーツリズムの楽しさがあった先に安全・安心に使う、健康になって、環境にもいいとなる。いきなり環境とか健康というところに入っていけないところを、入口を入りやすくした。本当の目的はその先にある。そんなことを念頭に置いておけば公共政策として進める意味も上がってくると思う。
事務局	・「楽しむ」ということに賛同をいただけてありがたい。言葉だけ一人歩きしないで、中身が伴った楽しさをどうするか、誰にどうしてもらおうかを含めて、中身をしっかりと詰めさせていただきたい。
平田 委員長	・ビジョンは委員の皆さんは重視されている。時間がない中でたたき台を作っていたが、揉んでいない。これからパブコメにすぐ入ってしまうのか。
事務局	・パブコメは3月中旬～下旬を予定している。
平田 委員長	・まだ少し時間がある。今いただいたご意見だけでもいいビジョンが作れそうなアドバイスをいただいた。もう1度練ったものにご意見をいただいた上でパブコメをしたい。パブコメは県民の方に伝わるものでなければもったいない。
事務局	・市町村にも意見照会する。今日のご意見と市町村のご意見を踏まえて修正したものを委員に事前に確認いただいてパブコメにかけたい。
平田 委員長	・いいビジョンを作りたい。委員会後にアドバイス依頼が行くが、ぜひよろしくお願ひしたい。

■目標について

室谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・重点措置など、書かれていることは理解した。 ・健康増進のところ、重点措置を上げるのはよいが、イベントをやって終わりだったり、チラシを配って終わりだと、県内の健康増進が進まないと思う。イベントはやらないよりはやったほうがよいが、具体的にクルマ依存している県民性ということは土浦のりんりんスクエアができる前から相談をいただいて、土浦市の職員と一緒に散走のワークショップをやったりいろいろなことに取り組んで自転車が活用されるように役所から始めるようになってきたという動きはあったが、それが具体的に継続しないとダメではないか。クルマ依存型で自転車を活用する県民が増えないのではないか。 ・ツーリズムにおいて外の人向けのプロモーションはすごくやっているが、ツーリズムが稼ぐための道具のように勘違いされている地域も多いように最近感じている。県民が豊かに楽しく自転車を活用することによって県内の消費が増えると思う。取り組み方について踏み込んだ表現があったほうがよいのではないか。
事務局	・おっしゃるとおりであり、事務局で検討したい。改めてお示ししたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本気でやっているところはあるのか。チラシを配るとかシンポジウムをやるといのはあるが、実効性がない。 ・一点突破でもいいのだが、モデル事業をやって、効果のデータを取り、エビデンスを示しながら広げていく。初めに協力してくれる企業にもインセンティブ

	<p>を与えてもよいのではないか。自転車通勤を増やす施策を本気で考える。「検討します」というとやらないように聞こえる。ぜひよろしくお願ひしたい。</p>
<p>絹代委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全の取り組みについて、ライフステージ別の具体的な計画をお示しいただいて、しっかり網羅されていて素晴らしいと思うが、チラシを配って終わりとか、1個2個安全教室をやって終わりとなってしまうと効果は出てこない。 ・ライフステージ別のものを見ても、子育て世代の保護者向けの交通安全教室というのがあるが、保護者は交通安全教室に来るのか。働きながらお子さんを乗せていて、信号無視をしたり、危険行為をしている方も多くいるのが現状である。どうやって保護者に届けるかという手法を工夫していかなければいけない。 ・子供を乗せた自転車の問題のある走行が大きな問題になっている。チラシを配っても読まずに捨ててしまう。保育園からの声掛けもない。ルールとその理由、たとえば、ヘルメットを被らずベルトをしないとイケないのは、急ブレーキのときに子どもが飛んで頭から落ちてしまう、などということを示すなど「見ればわかる」ポスターを園の入り口など、目につくところに貼っておけば、保護者たちはハッと気付けるのではないかと他の自治体で話し合っている。 ・教室に集まる方は既に関心がある方である。現状を変えて、保護者が子どもにルールを伝えられるようになることを狙うのであれば、母子手帳を渡すときにリーフレットを渡してもらおうとか、時間があるとき、これから親になるというときに読んでもらおうとか、シーンを選ぶ。あとは目につくところに貼る。なぜルールを守らなければいけないのかという理由を一緒に提示する。右側通行していると轢かれるからダメということを知った方は右側通行をやめる。情報の出し方を注意していただきたい。 ・小学生の項目で子ども自転車大会とあるが自転車大会は本当にやる気のある子どもしか参加しない。実生活の街中での自転車のふるまいを伝える安全教室、乗り方教室とは少し趣旨が違うようにも感じる。 ・長野県は交通安全教育をする機関があり、ホームルームでできる5分テストとか、そういうもので交通ルールをお子さんたちに習得させる取り組みがある。 ・子どもたちに届くもの、保護者に届くもの、効果が出るものを精査する。そういう部会があってもいいと思う。効果を追求していただきたい。それがサイクリング王国の土台になると思う。 ・ルートとコースという言葉が併用されている。ほかの自治体でも何とかしようというところが多い。例えばルートを作ると言って、項目としては6コース作るようになっていたり、ルートとコースが混同して使われている。言葉の使い方を統一したほうが、これを受けて実際の計画を作ったり行動を起こしていく市町村は動きやすいと思う。言葉の定義をしっかりといただけると広がりやすいと思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートとコースの使い分け、言葉の定義づけをしっかりと行いたい。 ・子どもさん、親世代の意識啓発は確かにチラシの配布だけでは、配るほうは配

	<p>って満足だが、それが届かないと意味がない。ご意見を踏まえ、実効性があるものを内部で検討したい。</p>
<p>平田 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これはいつも悩ましい。やるのは確かに大変である。 ・那珂市で計画を作って、直後に車道での死亡事故が起きてしまった例がある。その事例をそれで終わらせるのではなく、今後に活かす。事故を見ると気をつけなければいけないと思える。なぜ事故が起きたかという、車道の左側を走っていたが、夜、ヘルメットをつけずに、後ろのライトもなく、後ろから追突されてしまった。 ・事故データはあまり分析されていないということであったが、市町村では結構やっている。事故データをうまくわかりやすく集計や分析して示すこと自体が安全教育になる。データ分析をうまく連携して伝わるメッセージと、また媒体が必要。1 期目はライフステージ別に整理していただいたのでよいが、次は従来型でない、これを超えたトライアル、効果を確認することを実験的に市町村と連携してやってみるといのがよいのではないか。 ・子ども、中学生についても、県庁側だけで考えてやるというより、主体となる皆さんにも一緒に考えてもらい、一緒に実験に参加してもらおうとか、一方的な教育ではなく、参加型の教育の取り組み、どうやったら安全・安心な環境が作れるか、市民を巻き込んで一緒にやる。それがひいてはルール等を守るという意識にもつながっていくと思う。新しい取り組みもやっていただきたい。
<p>中島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進、自転車通勤について質問だが、ツーリズム領域は県が旗を振ったおかげで、やる気のある自治体とか地域ごとに差が出てきている。やる気のある地域は実効性があることをやっていて、県がさらに後押しするといういい感じの状況ができつつあると思う。自転車通勤や健康増進という文脈で、ここの地域は頑張っているとか、県内の差異はあるのか。もしあれば、そこにスポットを当ててより伸ばしていくことを後押しされるとよいのではないか。
<p>平田 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中島さんのご趣旨は、先進的にやられている市町村の取り組みをほかの市町村に紹介しつつ、先進的なところはもっと伸ばすために県からテコ入れするということか。
<p>中島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうところが既にあるのであれば、そこにスポットを当てていくことが周りにもわかりやすいのではないか。ツーリズム関係ではそれが結構できていると思う。
<p>室谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦市が音頭を取って、近隣市町村と一緒に自転車通勤を促進する職員に向けてのイベントをやったと聞いている。 ・それを県がやっているわけではなく、第1次活用推進計画のときにも具体的に動かさないとダメということをついたら、まず県の職員からやりますみたいなことを当時の委員会では茨城県庁が言っていたが、実際にその後自転車を活用されているという話は県からは聞かない。ほかの市町村がやっているからいいというわけではない。示したものをイベントで終わらせてしまっていることが

	課題ではないか。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・何十市町村で1週間やるというイベントである。 ・県庁は自転車通勤を促進していないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦市とか9市町で連携して、自転車通勤でどこが一番になるか競争をやっていた。 ・自転車だけでなく、公共交通の活性化も含めて、自家用車の通勤をなるべく控えるようにしている。そこは我々は弱い部分がある。全庁的にモデルとなるような取り組みを検討したい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャストアイデアだが、スポーツ庁では、自転車に限ったものではないが、スポーツ実施率の向上が大きなアジェンダとして挙げられている。例えばスポーツインライフプロジェクトの旗を振られている。県内にもスポーツインライフプロジェクトに賛同している企業が出ている。そういったところに呼びかけて、スポーツ実施率の向上という文脈で自転車の活用はどうですかとサジェスチョンしてみるとか、もしかしたら既に近い取り組みをやられているところに投げかけていくとか、そういうこともあり得るのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実施率の向上はスポーツ推進課が所管している。国と同様に、県の目標値を掲げてやろうとしている。 ・自転車だけではないが、自転車を切り口に進めることも有効な手段だと思う。事業所の取り組みを何らかの形で動かさないか検討している。うまく対応していきたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツクラブや球団もよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツとの連携というのもスポーツ推進課でやっている。アントラーズはDMOの中で自転車を活用した協力をしていただいている。スポーツチームにはそれぞれ戦略があり、必ずしも自転車中心のものとはマッチしないものはあるが、話題に出しながら、選手の育成方法の1つとしてもいい形でやっていければと思う。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁のスポーツ推進の中では自転車はどのぐらいのウエートを占めているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい。スポーツによる活性化という中では、一番のメインは自転車である。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それはなぜか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・入りやすいということである。誰でもできる。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・道と自転車さえあればいい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿島アントラーズでは自転車を活用していると聞いている。ほかのスポーツとの連携はすそ野を広げる意味でもよいのではないか。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・アントラーズのサッカーを見に行くときに自転車で行くとか、そんな単純なことではないのか。

中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ガンバ大阪でやっていたりする。観戦型のスタジアムスポーツとサイクリングの組み合わせはほかの地域では始めている。それも面白いのではないかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の観戦ツアーは今度の開幕戦でやる予定である。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車でいくと何かいいことがあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿島セントラルホテルが広域レンタルのレンタサイクルの拠点になっている。高速バスの発着地にもなっている。そこから自転車でスタジアムに行く途中に鹿島神宮があるので必勝祈願をしながらというところである。 ・サッカーの試合の時間帯もあるので、あまり遅くなるとどうかなど課題がある。 ・そういった形で一緒に連携しながら取り組みたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・土木部が鹿島スタジアムの渋滞対策で専用レーンを作る実験をされていた。東京からの高速バスを早く行かせるとか、バスで来た人を自転車で地域間移動させるとか、一緒にやると県としてのPRになるし、情報としてもよいかもかもしれない。
宮内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉スタジアムでサッカーの試合日に実証実験を行っている。観戦客が最寄りの2つの鉄道駅から2次交通としてシェアサイクルを利用する。 ・北海道北広島市に建設中である日本ハムのスタジアムは駅から離れている。駅から自転車を使ってスタジアムに行くアイデアもある。 ・大阪万博では環境のことも考えて自転車で行けるようにするという。 ・中島委員のご意見はかなり可能性がある。積極的に進めると自転車にふれあう機会が増えるのではないかな。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿島スタジアムには人がすごく集まる。元鹿島の中田選手が渋滞対策のルート案内のポスターに出ていた。鹿島スタジアムの休憩中にオーロラビジョンで中田選手などが自転車のマナーについて言ってくれても効果的かもしれない。車で来る人が大半だが、車で来る人のために自転車に配慮してくださいと言ってくれれば、間接的にメッセージが行き渡るだろう。鹿島アントラーズはそういうことに協力的な印象がある。色々な方々と連携して安全教育をやるとよい。検討いただきたい。
室谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・10年以上前に、川崎フロンターレからの依頼で、球場で市民向けに自転車パンク修理講座、空気入れ競争など、ゲーム感覚で遊べる、子どもや大人が参加できる講習会を自転車普及協会と一緒にやったことがある。たくさん来た。パンク修理は自転車屋に持っていくのが一番いいが、自転車屋にはパンクしてからしか行かなかったり、安全講習や、修理するとか空気を入れることすらやらない市民が多い中で、そういう機会があると自転車に少しでも興味を持つと思う。自転車の試乗会などをすると体験の機会になるのではないかな。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな事例がある。地域に根差したプロスポーツのチームと連携するのはいいかもしれない。 ・スポーツ、イベントを楽しむだけでなく、しつこいぐらい安全教育を挟むのも

	よいかもかもしれない。茨城県は安全教育がしつこいと思われるぐらいのことをやると広がっていくかもしれない。
--	--

■ネットワーク計画について

宮内委員	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料 5 の案内看板の中には英語を併記していないものや英語表記が小さいものもある。インバウンド客対応を考えたときに英語併記版に付け直すかステッカーで英語表記をするなどの手間が加わる。最初から走行中に判読できる大きさの英語併記にしたほうがよい。2 月に実施するので間に合わないかもしれないが、最終形を考えたほうがよい。 P.64 のマップで、既に県のモデルルートが設定されて、完成すればネットワークされる。その接点の部分では隣接コースにつながる。ヨーロッパのユーロヴェロやドイツのナショナルサイクルルート、スイスのスイスモビリティの自転車ルート、オーストリアのルートもそうだが、全部コースにナンバリングしている。「大洗・ひたち海浜シーサイドルート」は 16 文字あるが、長いコース名の表記だけではルート同士の接続箇所においてはわかりにくい。3 番とか併記してあれば、こちらに行けば 3 番のルートだなと外国人でもパッとわかる。そういう手法はサイクルツーリズムの先進地である西ヨーロッパですでに何 10 年も前に確立されている。最終形はネットワークなので、ネットワークされた時点でわかりやすいということを念頭に置いて看板を作ったほうがよい。 ルートは茨城県の場合 4 階層ある。案内看板では、ナショナルサイクルルート、県のモデルルート、市町村の支線ルート、サブルート（アクセス道路）の階層がわかるようにするべきである。スイスは、基幹道路の番号は 1 桁、地域ルートが 2 桁、ローカルルートは 3 桁になっている。あるいは数字の色を変えて階層を表すとか、案内看板を確認するために一時停止せずとも走行中でもパッと見てわかる工夫が必要。ユニバーサルデザインにする視点を持っていただきたい。 外国を走ったことがあるが、とりあえずルート番号と英語が記してあるとすごく助かる。台湾も環島 1 号線は「1」と書いてあり、支線は「1-幾つ」と枝番号が 20 幾つまで振られていて、道路が変われば地名が分からなくても数字の判読だけでパッとわかるようになっている。そういった視点は入れていただきたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> これはできそうである。確かに最終形をイメージしておくことは大切である。
宮内委員	<ul style="list-style-type: none"> ナショナルルートは整備されたレベルが別格で、ほかの 3 ルートはなかなかそこまでのレベルには仕上がっていない。サインと同様に他の要件の整備も進めていただきたい。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> 同じ感覚は持つが、むしろそれはこれからネットワーク化していくという意味表示である。やったらやらなければいけなくなる。本気でやっているのだから、

	<p>ネットワーク化する、階層もあり、使い方もちゃんとわかる、それに向けてサインをつけている。サインをつけたからにはやりますという意味表示にもなる。積極的にユニバーサルな整備をしていただきたい。二度手間になってもいけない。前向きにご検討いただきたい。</p>
本村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングは大事だが、ナンバリングをどのように振るかというルールは自動車道も含めて県で持っているのか。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車道に対してはない。
本村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク化に当たって、今後増えることに対応できるナンバリングのつけ方を統一したほうがよい。これを機会に英語だけでなく、多言語にする。内部でデータベースにできるようにするとよい。今回標識が間に合わなかったとしても、QRコードだけでも貼れば、後で対応できる。
平田 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう仕掛けをしておく、後で柔軟にできるのでよい。 ・市町村とネットワークでつながってくるときに、市町村のルートも統一的にできるとよい。ぜひ、検討してほしい。 ・第1期で作ったものを高質化していく。ナンバリングするときにも高質化しなければ元も子もない。両輪でやっていただきたい。 ・県の計画なので県主体のネットワーク計画でよいが、市町村に自転車活用推進計画を作ってもらうときに、過去に市町村が市町村内の県道を市の中のネットワーク計画に位置づけて整備をお願いするということであったが、県としては全県を見なければいけないし、広域のルートもやらなければいけないため、現実問題として難しかった。常総市の議論の中では、県の協力をいただいて短期にできる路線と、スペース的にもやりやすく、ネットワークとしても重要なところを県の意見もうまく引き込みながら市町村計画に落とし込んでいただいた。ああいうスタイルを参考に、これから今作っているところもどう見直して更新していくとか、新しく作るところでどういう視点で協働しながらネットワークを作るかというところを、そこをどうメッセージを発するか。その辺を一緒にやってもいいという気はする。そこが非常に弱い。反省すべきことは反省し、反省点も書いておけば誠実な感じでよいと思う。これからこうしていきたい、お互い協力できるところは協力しようというメッセージが今は全然ない。市町村からするとそこが非常に曖昧でどうしていいかわからない。お互い不信感をもつといけない。そこは書いていただくとありがたい。 ・県の新しい基準で作られた道路は本当に自転車で走りやすい。あれは停車のための空間というわけでもない。路肩が広く、停車帯としても使えるし、自転車も走れる。ピクトを引かなくても安心・安全に走れる。あれがネットワーク化されてくるとよい。ああいう道路は今ネットワークに入っていないくても、あれを積極的に位置づけしていける部分があればやっていくといい。本格的な自転車通行帯として、厳然として目の前があるのでアピールしたほうがよい。

(3) 自転車活用推進計画改定スケジュールについて【資料5】

平田 委員長	・3月下旬のパブコメに向けて、その後にもう1回委員会があるので最後の議論ができる。時間的に間に合えば、パブコメ前にたたき台を見ていただいて、ご意見をいただきたい。
-----------	---

4. その他

5. 閉会

以上